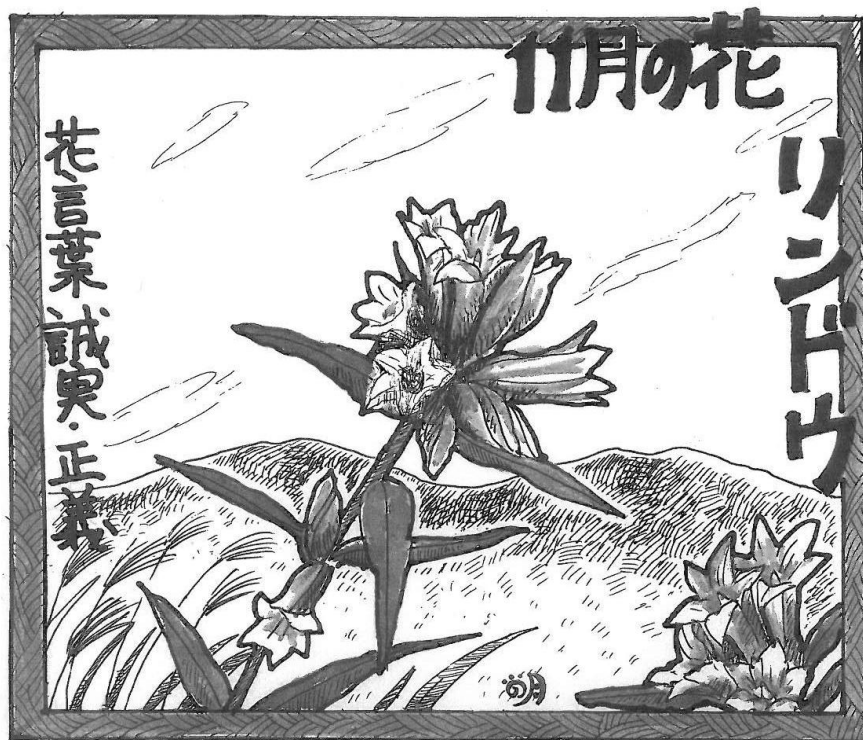


ハヶ岳だより

川崎市ハヶ岳少年自然の家

NO.40

2012. 11. 11



ハヶ岳の頭がついに白くなり、自然の家の木々も赤や黄色に紅葉が進んでいます。自然教室で訪れる子ども達もハヶ岳の寒さにビックリしています。

到着してバスから降りた時は薄着をしています。入所式を終えてプログラムが始まると、さすがに厚手の上着を着込んで走り回っています。

自然の家も冬に追われるように、近隣スキー場との打ち合わせ、施設の冬支度など進めています。

先日、川崎にて中学校冬期自然教室の説明会に出席しました。担当の校長先生がほとんど子ども達が初めてスキーを体験します。楽しく良い経験が出来、子ども達が成長できる様子を協力をお願いしたい」と挨拶されました。

中学校冬期自然教室は1年生が来ます。EVAで加持リョウジが 生きるってことは変わる事」と言っていますが、子ども達は親元を離れて自然の中で自分なりに自分を見直し反省し、奮い立たせて成長していきます。

校長先生の期待に応えられる様に子ども達が楽しく良い経験が出来、それにより成長するチャンスをつかめるように全力を尽くしていきたいと思っています。

自然教室だけではなく団体・家族でも初めて冬の活動を体験する子ども達がいっきり楽しめる準備をしてお待ちしております。

(ただし、冬のハヶ岳はとっても寒いので、暖かくして、おいでください！)



主催事業「森の探偵団」

ここ数日、ますます秋の色が濃くなってきた八ヶ岳。

猛暑や温暖化と言われていても、その時期になればちゃんと赤や黄に色を変え、人を引き寄せ、見る人に感動や癒しをあたえてくれる紅葉の山々。 とても、気持ちの良い季節になりました。

そんな中、先日、「森の探偵団」という家族親子を対象とする主催事業を行いました。今回の主な内容は、ハイキングや、きのこ探し、クラフト体験といったもの。



この事業は、年4回を通して春夏秋冬、四季折々のプログラムを体験する企画なのですが、同じ所へ行っても、その季節によって自然は見せる顔が違います。前回は、春と夏に行いました。そして今回は、「秋」。涼しいというより、むしろ寒いと感じる中、元気いっぱい八ヶ岳で楽しみました。そして次回は、「冬」。また違った季節の八ヶ岳を楽しんでもらいたいと思います。(小松)

きのこの季節なのに

毎年この季節になると朝の挨拶は「どう?」「ぼちぼち」なんて、きのこの採れ具合が挨拶代わりになるくらい、八ヶ岳周辺はきのこ採りの盛んなところですよ。

今年は雨が少なく、いつまでも暑い日が続いたのできのこが不作でした。10月の後半になってやっと、いつものきのこの顔ぶれが出揃ってくれたのに、今度は放射能の心配です。

群馬県境の佐久地方で野生きのこから基準値を上回る放射性セシウムが検出され、その影響で栽培のきのこまで自主回収されたりしているそうです。

諏訪地方では、まだ基準を超えたきのこは検出されていないので、いつものように楽しんでいます・・・

安心して野生のきのこを楽しむことが出来るようになるには何年かかるのでしょうか? 土が汚染される怖さを感じた秋でした。(K)



課題別学習担当3人娘?から

～植物・動物・鳥などの観察のお手伝いをしています～

自然の家では、自然教室で課題別学習を行うときに、職員がそれぞれ課題に分かれて子ども達に説明しています。今回は植物などの課題別学習の担当にインタビューしてみました。



Q1 所内の一番好きな場所は?

- ・夏のヤマユリの小径 木漏れ日の中でいい香りに包まれて最高です。
- ・せせらぎの森の小高い丘 見晴らしがいいです。
- ・自由広場です。編笠山が見え、足元の土の上には鹿の足あと、子ども達の砂遊びのあと・・・。

Q4 感動したエピソードは?

- ・カタクリの種を観察していたら、沢山の蟻たちが種を運んでいるところに遭遇したとき。
- ・堆肥をひっくり返したら、ねずみの巣穴に沢山のドングリが蓄えられていて、動物を利用したドングリの種まきを目の当たりにしたとき。
- ・所内を歩いていて、たまたまセミの羽化に出会ったり、ヤナギランの種が見ている目の前でパチン!と開き飛んでいく瞬間をみられたとき。
- ・所内で保護された赤ちゃんヤマネが大きく育って所内へ戻され自然に帰されたこと。

Q2 好きな季節はいつですか?

- ・春です。冬が長い分、春一番の芽吹きを見つけると感動します。
- ・夏です。たくさんの植物や鳥たちがパワー全開で生きている姿を見ると元気がでます。
- ・冬です。静かな冬の朝、雪の上に残った動物の足あとを見るとワクワクして追跡しなくなります。



Q3 一番笑える出来事は?

- ・アカゲラが巣を掘っているうちに、頭を突っ込んだままヤニで動けなくなったところを助けたこと。
- ・ネットにからまって動けなくなった子鹿を助けているとき、子鹿が威嚇して「ブヒー!!」と鳴いたこと。
- ・キツツキの古い巣穴を見に子ども達と行ったときに、誰かが穴に棒を突っ込んで、偶然中にいたコウモリが飛び出してきたこと。

Q5 是非ゆっくり見てもらいたいものは?

- ・ゆっくり、のんびり自然の中に浸っていると、何か楽しいもの、不思議なものを発見したら、それが一番の宝物。
- ・センターハウスのプレイルームにある野鳥観察コーナー! 窓にエサ台が取り付けられてあり、マジックミラーになっているので、間近で見られます。
- ・木々の間から見える青空、そして本当の暗闇から見上げる満天の星空。

Q6 うれしかった事は?

- ・来てくれた子ども達が退所式のときの「3日間楽しかったですか?」と問いかけて、沢山の手が上がったとき。
- ・一緒に歩いているとき、「これ何?」「こっちに来て!」と質問攻めにあうとき。
- ・約1時間の自然観察の終りのあいさつのとき、「え～!もう終わり～? ヤダー」と子ども達が駄々をこねてくれるとき。

(ちょっとお薦めの一冊)

『森の聖者 自然保護の父ジョン・ミューア』 加藤則芳 著

「ジョン・ミューア」という名を聞いたことがありますか?

日本では、ナチュラリスト・自然保護というと「ウォールデン 森の生活」を書いた「ヘンリー・デイヴィッド・ソロー」は有名ですが、「ジョン・ミューア」という人のことはあまり知られてないかもしれません。

この本は、「アメリカの自然を救った男」「自然保護の父」と呼ばれたジョン・ミューアの生涯を描いた伝記です。

現代のアメリカの国立公園で、レンジャーやインタープリターが活動する基となる構想を持ち、シエラネバダの自然を国立公園として保護しました。

本からの抜粋を少し載せます。

「ジョン・ミューアが残した大きな功績のひとつは、国立公園であり、ウィルダネスであり、自然保護の思想であるとともに、自然のなかにとけこみ、自然と調和して生きるアウトドアの魂を、このように後世の人々の心のなかに植えつけたことだろう。」

(「森の聖者」山と溪谷社 抜粋)

この本の作者の「加藤則芳」氏は、こちら富士見町にも居住していました。



主催事業「ハヶ岳自然紀行」予定

● 自然紀行9 「博物館見学と小物作り」

開催日

12月8日(土)～9日(日) 1泊2日

● 自然紀行10 「ファミリーアドベンチャー4」

開催日

12月15日(土)～16日(日) 1泊2日



*詳細はホームページ等でお知らせします。

秋 自然の家 近況

秋も深まり、ハヶ岳の木々の葉が赤や黄色に色付いてきました。
ここ最近まで、猛暑や真夏日といった言葉が飛び交っていましたが、まるで嘘のようです。

日中は、穏やかな小春日和でも夕方にもなると凍えるような寒さになります。
朝夕の気温差もあり、最高20℃前後から最低5℃を下回る事もあります。
川崎市とおよそ1ヶ月程度季節が早いようです。

そんな中でも自然教室に訪れている子ども達は元気いっぱい活動しています。
「寒～い。寒～い。」と口々に言う子ども達。それでも、皆笑顔で楽しそうな様子に寒そうな感じは見受けられません。

“子どもは風の子 元気な子”この言葉が相応しいです。

今日も、自然の家のあちらこちらで子ども達の声が響きわたっています。

冬の足音はもう近くまで来ていますが、“風邪の子”にはならないよう体調に留意して過ごしてほしいと思います。(伊藤)



川崎市ハヶ岳少年自然の家

〒399-0101 長野県諏訪郡富士見町境字広原
12067-482

TEL 0266-66-2011

Fax 0266-66-2014

ホームページでも情報をお伝えしています。

<http://www.kawasaki-yatugatake.jp/>

指定管理者 (社) 富士見町開発公社

～あともがき～

今回の職員へのインタビューでは、自然の家の職員ならではの、動物、植物等との様々な出来事の話がありました。

また、季節の様子も掲載していますので、自然の家へ来るときの参考にしてみてください。

ぜひ、四季折々のハヶ岳の自然を楽しみに来てください！(D)

11月は「子ども・若者育成支援強調月間」です
一育てよう健やかに 支えようみんなでー